

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	61024に同じ
230	2007/03/27	61027	日本製薬	人血清アルブミン(20%) 加熱人血漿たん白 人血清アルブミン(25%) 人血清アルブミン(5%)	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	61024に同じ
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	61024に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	61024に同じ
231	2007/03/27	61028	持田製薬	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイパー-22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルボールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因プリオンである可能性がある。
232	2007/03/27	61029	持田製薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	61028に同じ
233	2007/03/27	61030	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CBS News/Healthwatch 2006年8月22日	中国Hunan省中部のChenzhou市でヒトボカウイルス感染の6症例(全て1歳以下の乳幼児)が報告された。これは新たに同定されたウイルスによる中国での最初の感染例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	日本人で初めてHIV2型の感染者が確認された。この男性は過去に西アフリカで輸血を受けたことがあり、このときの輸血が感染源とみられている。厚生労働省は1型だけでなく、2型についても検査体制を徹底するよう通知した。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
												クロストリジウム感染	第55回日本感染症学会東日本地方会 総会 2006年10月 26-27日 016	胸部打撲後、心肺停止、混合性アシドーシス、胸部筋組織の破壊像を伴う著明な気腫などを呈し、死亡した58歳男性の、死亡直前に採取された皮下気腫穿刺液を調べたところ、多数の偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出された。RNA遺伝子解析の結果、Clostridium chauvoeiと同定された。本菌は複数の同定キットでは明らかにできなかった。本菌は獣医学領域の病原菌として知られているが、ヒト感染症からの分離は初めてである。
												異型クローイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂食したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民へ伝播の危険はないと同定された。
												ウエストナイルウイルス	El Tribuno Salta 2006年12月27日	アルゼンチン国内で初のウエストナイルウイルス感染例が確認された。ゴールドバ州で1件、チャコ州で3件あり、感染者10名のうち2名がウエストナイル熱を発症する可能性がある。ゴールドバ州での患者はここ数年、海外への渡航歴はないことから、地元において感染したものと推測される。
												チクングニヤウイルス感染	毎日新聞 2007年1月24日 東京夕刊	厚生労働省は24日、スリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。この女性は昨年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイピー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞および FUクロイツフェルトヤコブ病原体に感染した視床下部 GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示 した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロ ウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在 し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルさ れず、ホルポールエステル処理で増加しなかったことか ら、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を 誘発するTSE原因プリオンである可能性がある。
234	2007/03/27	61031	持田製薬	日本薬局方 注射用胎盤性性腺刺激ホ ルモン	日局 胎盤 性性腺刺激 ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CBS News/ Healthwatch 2006 年8月22日	61030に同じ
												HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	61030に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	61030に同じ
												クロストリジウ ム感染	第55回日本感染症 学会東日本地方会 総会 2006年10月 26-27日 016	61030に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	61030に同じ
												ウエストナイル ウイルス	El Tribuno Salta 2006年12月27日	61030に同じ
												チクングニヤウ ウイルス感染	毎日新聞 2007年1 月24日 東京夕刊	61030に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	61030に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指嚮	感染症(PT)	出典	概要
235	2007/03/28	61032	伊藤ライフサイエンス	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
236	2007/03/28	61033	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
237	2007/03/28	61034	日新製薬	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	有	無	無	細菌感染	共同通信 2007年2月22日	千葉県船橋市立医療センターは22日、昨年2月に搬送され死亡した50歳代男性から、牛や羊などに高熱などの激しい症状を引き起こして死亡させる「気腫疽菌」が検出されたと発表した。この菌は土の中に多く生息するが、人への感染が確認されたのははじめてとのことである。
238	2007/03/28	61035	日新製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
239	2007/03/28	61036	ZLBベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	細菌感染	Epidemiol Infect 2006; 134: 1068-1073	Mycobacterium bovisはニュージーランドの野生動物や家畜を宿主とする。1995-2002年のヒト結核症例を疫学的、臨床検査学的に調べた結果、確定症例1997例中54例(2.7%)がM.bovisで、10万人当たり0.2人の割合であった。ヒトからの単離体23例中14例がウシ、シカ、オポッサム、フェレット、ブタ、ネコからの単離体と同一の制限酵素分析パターンを示した。ニュージーランドでは動物宿主からヒトへの伝播が低レベルで続いていることが示唆された。
240	2007/03/28	61037	ZLBベリング	①～③人血清アルブミン ④人血液凝固第XIII因子 ⑤⑥フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	①～③有効成分、 ④～⑥添加物	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 検用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
241	2007/03/29	61038	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060817	2006年7月21日に南ラトビアの小さな村で屋外村民休養行事と関連する腸炎菌による胃腸炎の流行が起こり、7月22-25日まで続いた。聞き取り調査した107名の参加者の内49名が流行症例の評価基準を満たし(発病率46%)、検便の結果26検体中8例が腸炎菌陽性であった。レトロスペクティブコホート研究の結果、生卵で作ったフライドポーク料理が原因と考えられた。
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。
												E型肝炎	西日本新聞 2006年10月26日	北海道東部に住む50-70代の男女4人が2-3月、豚やイノシシの体内に存在するE型肝炎ウイルスに相次いで感染し発症、1人が重い劇症肝炎で3ヶ月以上入院していたことが25日、分った。同一飲食店や自宅で十分に加熱していない豚の内臓を食べたという。4人の血液からはいずれもHEVを検出。遺伝子解析の結果、塩基配列が一致した。2004年に北見市で見つかったものとはほぼ同じ塩基配列であった。
												サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(11)	フランスで2005年8月から2006年3月の間に69例のSalmonella Manhattan感染が報告され、その内51例(74%)が南東部フランスからであった。聞き取り調査の結果、感染症例はポークソーセージと牛肉を食べた傾向が高かった。同時期に南東部フランスの肉製品からS. Manhattanが単離され、ヒトからの単離体とPFGEプロファイルで差がなかった。追跡調査により、ある食肉処理場でSalmonella spp.とS. Manhattanによる広範な汚染が明らかとなった。
												レンサ球菌感染	pigprogress.net 2007年2月21日	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。ニューヨークの健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。患者の農場のブタからもS. suisが確認された。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用精査	感染症(PT)	出典	概要
242	2007/03/29	61039	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	千葉県船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫」を発症させる。同センターは、「気腫菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
243	2007/03/29	61040	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	61039に同じ
244	2007/03/29	61041	化学及血清療法研究所	①フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③トロンピン	トロンピン	ヒト血液	日本	①③有効成分、 ②製造工程	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	61039に同じ
245	2007/03/29	61042	化学及血清療法研究所	①ボルヒール ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③乾燥濃縮人血液凝固第ⅩⅢ因子 ④、⑧乾燥スルホ化人免疫グロブリン ⑤、⑥、⑦、⑩、⑪人血清アルブミン ⑨乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	⑤～⑦、 ⑩、⑪有効成分、 ①～④、 ⑧、⑨添加物	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	61039に同じ
246	2007/03/29	61043	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	アプロチニン	ウシ肺臓	ウルグアイ	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	2006年12月中旬にケニア保健省に発熱と全身出血と伴った原因不明の死亡例数例が北東部のGarissa地区から報告された。12月20日までに計11例の死亡例が報告された。患者19例中10例の血清からリフトバレー熱(RVF)ウイルスRNAまたはRVFウイルスに対するIgM抗体が検出された。黄色熱、エボラ、クリミア-コンゴ出血熱、デングウイルスには全ての血清検体が陰性であった。6検体からRVFウイルスが単離され、確定された。2007年1月25日現在、死亡118例を含む404症例が報告されている。
247	2007/03/29	61044	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニューギニア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 精査	感染症(PT)	出典	概要
248	2007/03/29	61045	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
249	2007/03/29	61046	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	中国、 ニュージー ランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
250	2007/03/29	61047	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラ リア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
251	2007/03/29	61048	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラ リア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
252	2007/03/29	61049	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョ ンアガー	ウシ乳・心臓		製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
253	2007/03/29	61050	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョ ンブイオン	ウシ乳・心臓		製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用精量	感染症(PT)	出典	概要
254	2007/03/29	61051	化学及血清療法研究所	①、③乾燥日本脳炎ワクチン ②乾燥弱毒生麻しんワクチン ④乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン ⑤乾燥弱毒生風しんワクチン ⑥乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	①、③～⑥添加物 ②製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
255	2007/03/29	61052	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ	日本、米国、メキシコ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	宮崎県農政水産部 平成19年1月13、16、18日 プレスリリース	平成19年1月12日、宮崎県宮崎郡清武町の肉用種鶏飼養農場において、飼養鶏からA型鳥インフルエンザウイルスと思われるウイルスが分離された。13日、動物衛生研究所での検査の結果、当該ウイルスがH5N1亜型のA型インフルエンザであることが確認され、防疫対応が決定された。18日、病原性判定試験の結果、強毒タイプのウイルスであることが判明した。
256	2007/03/29	61053	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
257	2007/03/29	61054	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
258	2007/03/29	61055	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	クックドミート	ウシ心臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
259	2007/03/29	61056	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
260	2007/03/29	61057	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ウシ胃	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
261	2007/03/29	61058	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
262	2007/03/29	61059	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌス抗毒素	肝臓	ウマ肝臓	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
263	2007/03/29	61060	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌス抗毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	無	無	無			
264	2007/03/30	61061	日本赤十字社	(製造承認書に記載なし)	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	有	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												感染	Blood 2006; 108: Abstract #4144	0.2mM S-303 (アクリジン化合物) および20mM グルタチオン(GSH) を用いた改良S-303処理法を用い、RBC中の細菌およびウイルス不活化の有効性を評価した。輸血に関連するグラム陽性菌およびグラム陰性菌、Vesicular stomatitisウイルス、Adenovirus 5、HIVおよびウシウイルス性下痢ウイルス(HCVのモデル)のいずれも改良S-303処理により効果的に不活化された。
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
												マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグズーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	AABB Weekly Report 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												マラリア	ProMED-mail20061004.2843	中国東部の安徽省でマラリア感染が拡大している。地元保健当局によると、今年に入ってから2006年9月25日時点で17917例が報告されており、昨年と同時期と比較すると89.8%増加している。保健当局は緊急通告を出して、感染の監視を強化し、拡大防止のためにマラリア予防と治療に関する啓発を行うよう地元自治体に要請した。
												マラリア	Eurosurveillance 2006年11月16日	2006年8月にコルシカ島で三日熱マラリア1症例が診断された。フランス南東部出身の59歳男性で、2006年夏に南コルシカのポルトに滞在していた。患者はマラリア流行地域への渡航歴はなかった。マダガスカルに渡航歴のある三日熱マラリア患者が7月初めに同地区に滞在しており、コルシカのハマダラカによってP. vivaxの国内伝播が起こったことを示唆している。本症例は、この地域で報告されたマラリアの地域内伝播の1972年以来初の症例である。
												マラリア	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1): 070111	輸入感染症サーベイランスに関するヨーロッパネットワークへの報告数によると、2006年11月下旬以降、インド、ゴア州への渡航者において、熱帯熱マラリア患者が増加している。1月10日までに、ドイツで2例、デンマークで4例、スウェーデンで2例、計8例の患者が報告された。
												トリパノソーマ症	CDC/MMWR 2006; 55(29): 798-800	ロサンゼルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。